



子どもの日常に寄り添う研究活動により、「学びと成長」を紐解き、社会に貢献いたします

わが国の教育政策も2020年をターゲットイヤーに、さまざまな心理的・社会的リソースの活用による、複雑な課題に対応していく力の育成に舵を切りました。

子どもたちが学びに向かい、自らの意志で未来を創っていく素地をいかに育むかは、グローバルな教育課題とも言えましょう。ゆえに私たちは、研究活動の軸を「一人ひとりが自立した学習者としての成長実感を重ねられる環境のあり方」におき、保護者のみなさまや先生方と同じ目線で子どもに寄り添い、国内外の研究者の視点も取り入れ、「学ぶこと、成長すること」を紐解くことに努めてまいりたいです。

ベネッセ教育総合研究所
所長 谷山 和成



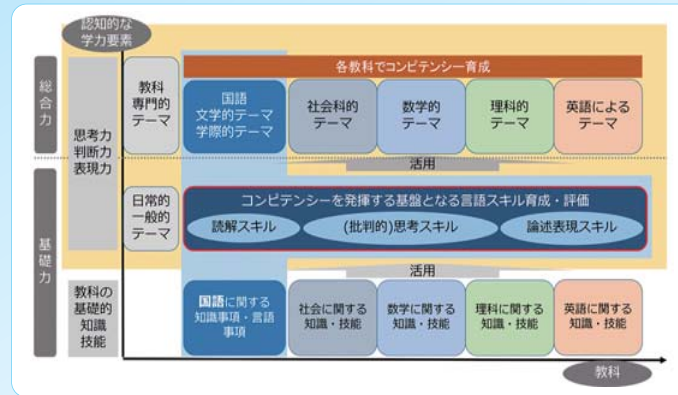
ベネッセの研究部門は、2005年に「ベネッセ教育研究開発センター」を、06年に「ベネッセ次世代育成研究所」、12年に「ベネッセ高等教育研究所」を設立し、以来、(株)ベネッセコーポレーションの社内シンクタンクとして、乳幼児から大学生・社会人、また、保護者のみなさま、学校の先生方など、幅広い範囲を対象に調査研究を行ってまいりました。

2013年には、これらの研究部門を統合し、「ベネッセ教育総合研究所」を設立しました。多様に化する子育てや教育環境を総合的に捉え、これからの社会に必要な力や、その力を身につけるための方法、評価のあり方などの研究を進めています。

今後もより一層の社会に貢献できる調査研究を目指して活動してまいります。

ベネッセ教育総合研究所
理事長 新井 健一

コンピテンシー育成・評価研究



日本の教育は、知識の定着を重視する教育から、コンピテンシーを育成する教育へ改革しようとしています。コンピテンシーとは実践的で複雑な課題を解決する力であり、現代社会を生き抜く子どもたちにとって重要な力と言えます。コンピテンシーを発揮するには、基礎力として言語能力全般、主体的に学ぶ力や協働する力が重要です。言語能力を発揮するには、PISAで定義されている読解力や、批判的思考力・論述表現力等のスキルが必要です。その基礎力は国語で身につけさせなければなりません。各教科で課題解決的な学習をするためにも基礎的言語スキルは必須であり、その課題解決的な学習によって実践的な言語能力が育成されます。ベネッセ教育総合研究所では、言語能力を高めるために必要な「テスト理論に基づいた PISA 型読解力・批判的思考力・論述表現力等のスキルを測定評価するアセスメント」、「言語スキルを育成する教材・指導法」について、研究者・学校現場の先生方と共同で実践的研究開発に取り組んでいます。

パネル調査



ベネッセ教育総合研究所は、2014年に東京大学社会科学研究所と共同で「子どもの生活と学び」研究プロジェクトを、2016年に東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターと共同で「乳幼児の生活と育ち」研究プロジェクトを立ち上げました。両プロジェクトでは、0歳から18歳までの子どもとその保護者(2万組以上)を対象に、その成長を追跡して調査します。2015年から16年にかけては、「子どもの生活と学びに関する親子調査」として小学1年生から高校3年生までの親子に対する追跡調査を行い、学習に関する意識・実態について1年間の変化を明らかにしました。今後も毎年、同じ親子を調査し、親子の成長・発達とその因果関係を明らかにしていきます。

ベネッセ教育総合研究所
研究内容と発信のご案内

http://berd.benesse.jp

- 次世代育成研究室
- 初等中等教育研究室
- 高等教育研究室
- グローバル教育研究室
- カリキュラム研究開発室
- アセスメント研究開発室
- 情報企画室

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりの「学び続ける」姿勢を支援し、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献します。

WEB サイト http://berd.benesse.jp



ベネッセ教育総合研究所の研究者による提言や、現在の教育を取り巻く課題などの紹介・解説、各研究室の調査研究成果などを公開しています。



● 調査・研究データ
ベネッセ教育総合研究所が実施した、子どもや教育に関連するさまざまな調査の報告書、調査データを公開しています。



● 教育フォーカス
環境動向、調査知見、学校事例を通して、子育て・教育における今日的な課題の解決策や、今後の展望について特集します。



● オピニオン
調査・研究を通して得られたエビデンスをもとに、ベネッセ教育総合研究所の研究者が、教育課題の解決に向けて提言します。

ベネッセが支援する3つの研究機関

ARCLE
Action Research Center for Language Education
これからの英語教育のグランドデザインに基づいて、幼児～成人まで一貫した英語教育を実現するための実証的な言語教育研究機関です。
http://www.arcle.jp/

CRET
Center for Research on Educational Testing
国内外の教育機関及び研究者などと交流し、社会で求められる資質・能力の育成と評価に関する理論やモデルの研究を行っている機関です。
http://www.cret.or.jp/

CRN
Child Research Net
子どもを取り巻く諸問題を、国際的な研究ネットワークを通じて学際的に研究するインターネット上の研究機関。日本語、英語、中国語版があります。
http://www.crn.or.jp/

各研究室のご紹介



次世代育成研究室

乳幼児～小学1年生



室長 高岡 純子

未来を担う子どもを育むためには、子どもの育ちや妊娠・出産・子育てを温かく見守る社会を構築する必要があります。次世代育成研究室では、乳幼児期のよりよい育ちや子育てしやすい環境づくりをテーマに調査・研究に取り組んでいます。幼児期から小学生にかけての「学びに向かう力」研究、0歳児からの長期縦断調査によって乳幼児の生活と育ちのプロセスを明らかにし、これからの保育・幼児教育のあり方を提案してまいります。

【研究テーマ】

乳幼児期の子どもの育ちや、妊娠・出産・子育てに関する調査研究

- 「学びに向かう力」に関する調査研究（国内、海外）
- 0歳～就学前までの子どもの生活や育ちについての長期縦断調査
- 子育てに関する意識・実態の国際比較研究
- 乳幼児のメディア活用に関する調査
- 産前産後のサポートに関する意識と実態調査



幼児期から小学生の家庭教育調査・縦断調査

子どもの生活や学びの様子、親のかかわりや子育て意識をテーマに、年少児期から小学2年生までの5年間を追跡した縦断調査。母親を対象に毎年実施。家庭での養育と学びに向かう力・認知スキル等との関連性や発達のプロセスを明らかにしています（2012年～16年）。



高等教育研究室

大学・専門学校・社会人



室長 木村 治生

高等教育を取り巻く環境は、グローバル化やIT技術の進展、社会の要請によって大きく変化しています。教育機関は、学習者の学びをどのように変え、成果を評価していくか。その改革は、まさに実行段階です。私たち高等教育研究室は、学習者一人ひとりが、それぞれの世界で活躍するための成長を実現する学びのあり方を研究しています。そこで得られた知見を使って、教育と社会のよりよい接続について議論する場を提供していきます。

【研究テーマ】

学生が社会で活躍する力を身につけていくプロセスに関する調査研究

- 大学生・専門学校生の学びの実態に関する調査研究
- 高等教育における能力開発プロセスの可視化と実践モデルづくり
- 教育から社会への移行や学習者の成長に関する研究
- 入試改革・教学改革におけるアセスメントの利活用に関する研究



学生の成長プロセスを可視化する実践的研究

本研究は、関東学院大学および株式会社ベネッセ・キャリアとともに、教育の質向上に必要な条件を明らかにし、実践に反映することを目的に実施。学生の成長や学修成果を可視化し、次の成長に導くための授業や研修プログラム開発を行う試行錯誤をレポートしています。



調査研究領域

副所長 木村 治生

【領域紹介】乳幼児から大学・社会人にいたる各段階の子ども・保護者・教師の実態把握と課題解決の知見創出



初等中等教育研究室

小学校・中学校・高校



室長 邵 勤風

社会環境・教育環境が激しく変わろうとしている今日、未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力とは何かを明らかにすることが求められています。初等中等教育研究室では、小学生から高校生、保護者、教員を対象に、子どもたちの学びや成長を取り巻く環境について研究を行い、その成果を発信いたします。従来の経年比較や国際比較研究に加えて、親子を対象としたパネル調査に取り組み、よりよい教育のあり方を提案してまいります。

【研究テーマ】

小学生から高校生の「学び」のプロセスと教育環境に関する調査研究

- 子どもの生活と学びに関する親子パネル調査（東京大学社会科学研究所との共同研究）
- 子どもの学習実態や意識に関する調査研究
- 保護者の子育ての実態や学校教育に対する意識、教育選択に関する調査研究
- 教員の学習指導に関する調査研究



第6回学習指導基本調査（小・中・高）

小学校・中学校・高校における学習指導の実態と教員の意識など、広くその実態をとらえる調査。1997年に第1回調査をスタートし、小学校・中学校は約20年間、高校は6年間の教育現場の変化をとらえることができます。転換期にある学校現場の状況が分かります。



グローバル教育研究室

英語



室長 加藤 由美子

グローバル教育研究室は、英語教育に関して、子ども・教員・保護者に対する調査研究を行い、日本の英語教育の課題を明らかにして発信してきました。また、幼児から成人までの一貫した英語教育のフレームワークの提示や、課題解決のための議論の場の提供も行ってきました。こうした研究と発信の活動を引き続き行うとともに、グローバルシナジーに求められる汎用的な能力および英語コミュニケーション能力の基盤となる言語能力の研究にも取り組んでまいります。

【研究テーマ】

小中高校生の英語コミュニケーション能力を高める要因に関する研究

- 幼児から成人まで一貫した英語教育のグランド・デザイン開発
- 子ども（小中高）の英語学習の実態に関する調査研究
- 学校（小中高）の英語教育に関する調査研究
- 英語コミュニケーション能力を伸ばしている学校・自治体研究
- 言語能力に関する研究



中高の英語指導に関する実態調査 2015

中学校や高校における英語教育の実態と、その担い手である英語教員の指導や意識について明らかにすることを目的に、全国の中学校と高校の校長および英語教員を対象に実施。日本の英語教育に関する成果と課題をとらえることができます。



カリキュラム・アセスメント開発領域

副所長 鎌田 恵太郎

【領域紹介】21C型（コンピテンシーベース）の能力育成のためのカリキュラムとアセスメントの開発



カリキュラム研究開発室

目標・指導・評価



室長 中垣 真紀

技術革新やグローバル化の進展により社会環境や学習環境が大きく変わる中、未来を生きる子どもたちは、多様な他者と協働して新しい価値を生み出していく力が求められます。そこでカリキュラム研究開発室では、これからの子どもたちに必要な資質・能力の目標、その能力を育成するための指導（学習）のあり方、学習成果の評価のあり方について、目標・指導・評価を一体的にとらえたカリキュラムの研究開発を行います。

【研究テーマ】

初等中等教育における、汎用的能力の目標・指導・評価の一体的研究開発

- 汎用的な資質・能力の目標標準の研究開発
- 汎用的な資質・能力育成につながる指導と評価の方法・技術の研究開発



ICTを活用した学びのあり方に関する調査

2013年10～11月、全国の公立小学校・中学校の教員を対象に、授業でのICT機器の活用実態やICT活用に対する教員の意識を調査。子どもたちに身につけてほしい力やこれからの学びのあり方を教員がどのように捉えているのかについても明らかにしています。



アセスメント研究開発室

教育テスト・評価



室長 鎌田 恵太郎

教育におけるアセスメントの重要性はこれまで以上に高まっています。従来例えばテストといえば、知識の定着を確認するもの、あるいは教科の特定の文脈の中で知識の応用力をみるものがほとんどでした。しかし現在は、知識とその応用の範囲にとどまらず、コンピテンシーを発揮するために必要な「多様な読解力・批判的思考力・論述表現力等の言語活動に必要なスキル」や「非認知的スキル」を測定するアセスメントが重視されるようになってきています。学校教育においても、すべての教科で思考力や表現力を育成する上での基盤となる力です。私たちはこれまで培ってきた教育測定論的な技術とIT技術を活用し、教育現場で必要な新しいアセスメントの研究開発で貢献していきたいと考えています。

【研究テーマ】

- これからの入試改革を見据えた汎用的能力測定や総合的評価方法の研究
- 社会で学び続けるために必要な能力・態度の測定・評価方法の調査研究
- 学習教材に組み込まれたアセスメントの研究開発
- 項目反応理論（IRT）に関連する心理測定的手法の研究開発
- ベイズ統計学の理論や考え方の心理測定学への応用研究
- 大規模アセスメントを安定的に実施するための「問題データベース」やCBT（Computer Based Testing）研究開発



情報発信領域

副所長 小泉 和義

【領域紹介】各研究室の研究知見発信および子育て・保育・教育の今と未来の課題解決に向けた情報発信



情報企画室



室長 黒木 研史

これからの社会は、今以上に環境変化が大きい、激動の時代を迎えます。そのような時代を生きる子どもたちにとって必要な力とは何か。その力を子どもたちが身につけるために必要なことは何か。家庭・学校・地域のそれぞれで、または連携して、私たち大人にできることは何か。私たちは、家庭・学校・地域の課題の把握と今後の動向予測を通して、子育て・保育・教育に関心のある多分野の方々と共に「答え」を考えていきたいと思えます。当研究所の知見、現場の状況に加え、海外の事例も踏まえながら、その答えを考えるために必要な情報を幅広く収集・発信し、子どもたちのよりよい成長に寄り添ってまいります。

コンテンツ紹介

<http://berd.benesse.jp>



あスコラ

コンセプトは、「一期一会の小さな学校」。学ぶ対象は「これからの学び」。学ぶ方法は、さまざまな領域の専門家（実践者、研究者、有識者など）との「ディスカッション」。コンピテンシー育成、英語4技能の育成、子どもと保護者のインサイトなど、毎回テーマを設定し、結論（正解）は求めない、時に刺激的で、時に深い、オープンエンドに語り合う場を創出します。それぞれの知見や経験、思いを語り合うことを通して、納得したり、刺激を受けたり、新しい発想が浮かんだり。そのダイジェストを、ウェブサイトで広く公開・共有していきます。



まなびのかたち

子どもたちの学びのあり方は多種多様であり、魅力的な理念やカリキュラムも多くあります。しかし、さまざまな制約からそのすべてを体験すること、そして選ぶことは難しいものです。そこで本コーナーでは、これらの学びの現場における意図や問題意識に触れることで、私たち大人が子どもたちにどのような学びや、学ぶ環境を提供できるのかを考えていきます。